

新泉サナホーム便り

第6号
2020年4月15日

発行人
新泉サナホーム
結城拓也

ご挨拶

新泉サナホーム

施設長 結城 拓也

例年になく暖かい冬を超え、ようやく春の日差しが心地よく感じる季節を迎えました。

年明けから、新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり、

世界保健機構(WHO)がパンデミックを宣言する状況に至っております。日本においても徐々に感染が拡がり、緊急事態宣言が出されております(4月8日時点)。

当施設においても、厚労省、都担当課からの事務連絡等に基づき、感染予防対策をより強化するとともに、状況に合わせてご家族様等来園者への体温測定、面会制限等を段階的に実施しているところであります。ご家族の皆様には、何かとご負担を掛けたいと思いますが、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

一方、感染が拡大する中、マスクをはじめ、手指消毒用アルコール、次亜塩素酸ナトリウムなど衛生資材が品薄状態となり、現時点では注文できない状態が続いております。衛生資材の確保を優先しつつ、使い方を工夫しながら、感染予防に努めております。

今後、国内の感染状況の推移により、サービス提供体制の見直し等も必要になってくるかと存じます。ご家族等の皆様には、その都度お知らせいたします。ご理解、

ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

今年度も、一歩ずつ確実に歩み続ける施設運営を目指して参ります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

冬から春の風景

今回は、冬から春にかけての新泉サナホームの様子をお伝えいたします。

新型コロナウイルス感染症の流行により、行事を縮小しておりますが、可能な範囲で継続してまいります。

年始恒例、書初め大会

去る1月、書き初めを行いました。お手本を見ながら、書き初めを楽しんでいただきました。

ご自身で書を楽しむ方、書を傍らで見ながら楽しむ方、それぞれの楽しみ方で正月のひと時を過ごしていただきました。





鬼は外、福は内!

去る2月、冬から春へ、季節を分ける節分を行いました。節分といえば、豆まき。新泉サナホームでも豆まきを行いました。



ちなみに、お手本は、職員の書道有段者が書いております。



突然ユニツトに現れた赤鬼、青鬼入所者の皆様が豆まき、鬼を追いか払い、福を招き入れました。



鬼は鰯の生臭さ、柊のトゲの痛さが

苦手なため、それらを玄関の軒先に置いて、厄除けにしていたそうです。当施設でも・・・と思ったのですが、衛生面や



臭気の関係で見合わせました。施設の中で、入所者・職員と豆まきなど年中行事の話をすると、地方ごとに特色があり、ちよつとした豆知識が増えるのも一つの楽しみです。

桃の節句

節分も終わり、桃の節句を前にした2月下旬、雛壇の飾りつけを行いました。近隣のお住まいの方等に寄贈していただき、各階E.Vホールに大小様々な雛飾りで楽しんでいただいております。



また、近隣の方より桃の花などを届けいただき、入所者の皆様にも春の訪れを楽しんでいただきました。

お花見

今年のお花見は、敷地内の桜の下で行いました。3月中旬に冷え込みが続くなど、開花するか否か不安もありましたが、何とか開花しました。当日は、和菓子や甘酒を飲みながら、春のひと時を楽しんでいただきました。



編集後記 今回は、冬から春にかけての様子をお伝えしました。いかがでしたでしょうか。

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、様々な情報が飛び交っていますが、1日も早い終息を願いつつ、

日々のサービス提供に努めてまいります。